那覇市立教育研究所 所報

第６号
令和３年９月 16 日発行
所長　宮里　寧

学級経営のカギを握る目指す子ども像

今なお、新型コロナウィルス感染症と闘う不安な日々が続いています。各学校においては、「学びの保障」に向け、日々きめ細やかに配慮し、ご尽力されていることと思います。一刻も早く、全ての子供たちが安心して学ぶことができる環境が整うことを願うばかりです。

さて、本市「学力向上推進計画（ふくぎ　じんぶな～プラン）」では「幼児児童生徒一人一人が大切にされ、よさや可能性を高め伸ばす学級経営」において、授業の基盤となる支持的風土のある学級経営を中心に取り組み、幼児児童生徒の自己有用感を育む学習活動等の展開の充実を目指しています。

そのカギを握るのが「目指す子ども像」です。

1,「一人一人（個）が成長（発達）する」学級を目指す

本市初任者研修では、まず子どもたちが「安全・安心」に過ごせることを目標にしています。そのために、いじめや危険なことを徹底的に防いでいくことを話しました。

教職3年目からは、「安全・安心」して過ごせるだけでなく、「一人一人（個）が成長（発達）する」クラスを目指そうと、話しています。

もちろん、「安全・安心」を保持するのは最低条件です。これが欠けてしまうと、一人一人の子どもが成長しようという気持ちさえ起こらなくなってしまいます。

2,「クラス像（集団）」よりも「子ども像（個）」を目指す

なぜ「クラス像（集団の成長）」の前に「子ども像（一人一人の成長）」を目指すのでしょうか。一人一人が成長し、力をつけたり自信を確かにしたりすれば、その子はクラスが解散した後もたくましく成長していくことができるからです。

3,「どんな一人一人に育ってほしいか」を目指す

具体的には、教師が「どのような子どもに育ってほしいか」を明確にもつことです。

「どんなクラスにしたいか」と、よく耳にしますが、重要なのは、「どんな一人一人にしたいか」ということを考えることです。

例えば、授業時間に、説明を何分かして、いざ子どもたちが活動をし始めようとする場面です。ぼんやりしていたり、おしゃべりをして聞いていなかったりする子が「え、何をするの!?」と周りの子に聞き始めたとします。それに対して周りの子が教えてあげようとしています。このとき、教師に「一人一人にこんな子になってほしい」という考えが明確になければ、指導しないで見過ごすことになります。むしろ「助け合って良いクラスだな」と思って終わりかもしれません。

しかし、「どんな一人一人に育ってほしいか」を明確にしているとき、このような状態ではいけないと「気付く」はずです。その気になれば話を聞いて理解することは誰でもできるはずなのに、それをしなかった子が、他の子の活動時間を使っていつも助けてもらっているのです。そこに「一人一人の成長」はあるのでしょうか。

このように、「どんな一人一人に育ってほしいか」という「目指す子ども像」をもつことで、一人一人の成長が妨げられている場面に「気付く」ことができるようになるのです。「気付く」ことさえできなければ、手の打ちようがありません。「馴れ合い」は一人一人を強く、たくましく成長させません。

このように、「どんな一人一人に育ってほしいか」を考えることこそ一人一人の成長につながる指導ができ、なおかつ「馴れ合い」を防ぐこともでき、結果としてクラス全体も成長するのです。

「どんなクラスにしたいか」という考えでは、「仲のいいクラス、助け合えるクラス」のように漠然としてしまって、一人一人に目が行かなくなってしまいます。

4, あらゆる場面で、「目指す子ども像」をもつ

ベテランの教師は、子どもを見る「視点」が多いのです。授業などで子どもに挙手させる場面一つをとっても多くのことを観察しています。子どもの目線や肘、指先をよく見ています。なぜそれらを観察するかというと、目線からは周りの顔色をうかがって手を挙げていないかについてや、肘や指先からは「自分の意見を言うぞ!」というやる気などについてを、見とっているからです。

一方、若い教師はただ人数を確認する程度です。「力量の差」は「視点の数の差」に表れるのです。視点を増やすためにはあらゆる場面において、目指す「子ども像」をもつことが大事です。

「あらゆる場面」とは、「挨拶の場面」、「起立の場面」、「教科指導での場面」、「掃除の場面」、「プリント配布の場面」、「廊下を歩く場面」などです。これら一つ一つに対して、「目指す子ども像」を具体的にもつことです。

なるべく毎日繰り返される場面でもつようにすることです。

そのほうが「気付く」→「手を打つ」→「振り返る」というサイクルを回しやすくなるからです。

教師が「目指す子ども像」をはっきりもつということは、「仲のいいクラス」とか「積極性のあるクラス」などという漠然とした言葉で「クラス像」としてもっていた目標を、あらゆる場面で「この場面では一人一人にこうあってほしい」という具体的な目標に転換させる作業が大切です。そうすることで、「引っかかる点」を増やし、「気付く教師」に成長していけるのです。

研修　9月　教育研究所事業

緊急事態宣言の延長に伴い、集合研修は行っておりません。

２日	（木）	初任者研修⑩	オンデマンド
３日	（金）	標準学力　課題改善研修会(中学校)	オンデマンド
７日	（火）	標準学力　課題改善研修会(小学校)	オンデマンド
９日	（木）	情報教育研修会④	オンライン
15 日	（水）	初任者研修指導教員等連絡協議会③	オンデマンド
27 日	（月）	第 116 期修了式	研究所会議室

第116期教育研究員成果報告

第 116 期教育研究員が、研究所での６ヶ月間の研究成果を報告いたします。

今期は、成果報告を期間限定で配信いたします。また、研究報告書は研究所 Web ページに掲載いたします。

○ 配信期間／9 月 24 日(金)～10 月 7 日(木)【2 週間】

○ 研究員／謝花　真乃（天久みらいこども園保育教諭）

親川　孝彦（城岳小学校教諭）／高江洲　千夏（松島中学校教諭）

新刊のお知らせ

書名	著者
『小学校　見方・考え方を働かせる　問題解決の理科授業』	鳴川　哲也
『道徳的価値の見方・考え方』	赤堀　博行
『オンラインとオフラインで考える特別支援教育』	郡司　竜平
『主体的・対話的で深い学びを実現する　算数の追求問題&板書モデル』	長岡算数教育を語る会
『 そだちあう５歳児が見える・わかるエピソード』	後藤　和佳子

那覇市立教育研究所の図書室には毎月10冊程度の新刊が入ってきます。是非足を運んでみませんか？図書搬送システムを利用しての貸し出しもできます。詳しくは学校図書司書へ。

研究所蔵書の一部は、
下記 URL または右記 QR コードから確認ができます。
https://booklog.jp/users/nahaken2016